

## 福岡県の主な農産物の生産状況

令和3年2月1日現在  
(専技情報より抜粋)

### ◇麦類◇

11月中旬播きの生育は、平年並～やや早いです。草丈は低く、茎数はやや多く、葉数は5葉期前後です。12月上旬播きの生育は、茎数が少なく、葉数が3葉期前後で平年より遅く、播種時期の違いによる生育差が大きいです。現在、麦踏みや土入れ、追肥の管理作業が行われています。雑草の発生量はやや多いです。

ほ場の湿潤状態が続いており、排水口を整備し、地表水の排水を促しましょう。追肥を行っていないほ場は、早急に施用する。追肥後は必ず土入れを実施しましょう。踏圧は、土壌水分が低い時に節間伸長開始期前までに3～4回実施しましょう。雑草が多いほ場では、草種に応じて適期に対策を実施しましょう

### ◇イチゴ◇

1番果房の出荷は終了しました。2番果房の出荷は1月中旬頃から開始しており、出荷数量は2月中旬にかけて徐々に増加する見込みです。2番果房は果実肥大が良く、果形も比較的良好です。1月上旬の寒波と2番果房の着果負担により草勢がやや低下しています。3番果房は連続傾向とみられます。ハダニ類の発生が多く、アブラムシ類、アザミウマ類も散見されます。また、うどんこ病が散見されています。

天候と株の状態に応じ、温度や電照管理、摘果などを徹底し、適正な草勢維持に努めましょう。ハダニ類、灰色かび病などの対策を徹底しましょう。

### ◇冬春トマト◇

9月下旬定植は、12月中旬から出荷を開始しています。果実は大玉傾向で、1月上旬の寒波で生育はやや緩慢となっており、現在、2段果房が収穫中です。果実の成熟が遅く着果負担により草勢は低下傾向である。コナジラミ類やうどんこ病が散見されています。

誘引・整枝による採光確保と適切な温度確保により、草勢を維持しましょう。病害虫管理を徹底しましょう。

### ◇ぶどう◇

加温栽培は、「デラウエア」は11月下旬、「巨峰」は12月中旬、「シャインマスカット」は12月末から被覆を開始しています。現在、生育が早い園地は新梢伸長期です。

被覆後は、新梢の伸びを揃えるため、日中にかん水し、ハウスを閉めこむことで、ハウス内の湿度と地温上昇を促しましょう。

### ◇施設ギク◇

2～3月出荷作型は、1月上旬の低温期以前に消灯したものは花芽発達が遅れ、低温期以降に消灯したものはやや早い傾向であるが、生育は概ね順調です。白さび病の発生がみられます。

安定的な花芽分化と発達を促すため、消灯前後の適正温度を確保しましょう。換気や暖房機の送風、循環扇の稼働、夜間温度の維持により湿度低減に努める等、白さび病の対策を徹底しましょう。

### ◇畜産◇

1月の豚枝肉価格は、鍋物商材等の内食需要が増加していることと、前年より肉豚出荷頭数が減少していることにより、前年及び過去5年平均水準より大幅に上昇しました。鶏卵価

格は、1月は例年低単価期であることに加え、緊急事態宣言の発出による外食需要の減少により、前年及び過去5年平均水準を大幅に下回りました。

12月に三重県、1月に和歌山県でもCSF（豚熱）が発生したため、豚舎での発生予防の衛生管理を徹底しましょう。また、鳥インフルエンザも国内で続発しているため、鶏舎の野鳥侵入対策等、農場防疫を徹底しましょう。イタリアンライグラスは追肥を実施しましょう。